

道の駅「北条公園」の現状



〔特産物販売店〕

〔概要〕

名称：道の駅 北条公園  
 所在地：北栄町国坂1525番地92  
 立地：国道9号「北条道路」及び国道313号「北条湯原道路」という東西南北軸の交通結節点に位置し、国道9号を挟んで南北に施設を配置

登録日：平成5年11月24日  
 追加登録日：平成12年8月18日(北側施設追加)  
 (ドライバーの憩いの場及び情報交換の場を目的とした追加)  
 ※平成12年度 冬の円滑なチェーン装着を行う駐車場を整備

構成施設：

(北部) 飲食店(うどん屋、焼肉屋、ジェラート店)、直売所、オートキャンプ場、トイレ  
 (南部) 飲食店(定食屋)、直売所、コミュニティ施設、大規模駐車場、トイレ



〔屋内体育福祉施設「希望の館」〕

入込客数：(北・南)  
 (平成9年) - ※道の駅「犬伏」オープン  
 (平成15年) - ※道の駅「はわい」オープン  
 (平成17年) 86,334人 ※北栄町誕生  
 (平成23年) 39,133人 ※琴浦PAオープン  
 (平成27年) 44,719人  
 (平成29年) 38,692人 ※道の駅「琴の浦」オープン

持続可能な道の駅の実現

道の駅「北条公園」：高規格道路(山陰道)の整備をきっかけとした“ひと”・“モノ”・“情報”の流れに応じた町内外からの入込みを充実。道の駅を起点とした入込客の地域内循環、地域内交流の実現

道の駅と周辺地域の課題

〔道の駅〕

- ・山陰道(自専道)整備に伴う、立寄率の減少を懸念
- ・施設老朽化、近隣道の駅オープン等に伴う、入込客数の減少
- ・限られた物販であることに伴う、滞在時間の減少
- ・頻発する自然災害に伴う、道路・地域情報発信能力の不足

〔周辺地域〕

- ・砂丘地の基幹産業である農業の衰退  
 農家数：1,160戸 → 882戸(△24%)  
 就農人口：2,559人 → 1,688人(△34%)  
 就農者60歳以上構成比率  
 北条地域71.9% → 82% 大栄地域60.6% → 69.1%  
 ※平成17年 → 平成27年の数値
- ・子どもが遊べる施設の不足
- ・高齢者の買物困難
- ・大雪等山陰道閉鎖時の車両待機スペースの不足

再整備に期待する効果

- ・女性と子どもが楽しめる仕組み作りによる来場者数増
- ・オートキャンプ場など、個性を活用し、目的地となる施設の魅力向上
- ・既存の道の駅では扱っていない農産物、加工品等を扱うことによる入込客数増、消費額増
- ・国道313号「北条湯原道路」岡山方面からの利用者への情報・休憩施設の提供
- ・道の駅「大栄」と連携した周遊ルートの構築による地域全体での観光客の滞在時間の延長促進
- ・町外からの入込客と町民がともに作り上げる地域循環及び地域内交流による地域活性化の実現
- ・砂丘地農業の魅力を伝え、農家のやりがいにつながる仕掛け作りと付加価値の向上による砂丘地農業振興の実現
- ・国道9号「北条道路」・国道313号「北条湯原道路」の交通結節点における効果的な情報発信の実現(地域・道路情報)
- ・国道9号及び国道313号(東西・南北軸)の交通結節点に位置する立地を最大限に活用した災害時の防災拠点整備による迅速かつ確かな安全性確保の実現(雪害・風水害・事故等による交通規制時の車両待機スペースを確保することにより、迅速かつスムーズな初動体制の確立及び利用者誘導を実現)

目的・コンセプト・テーマ

【目的(まちづくりビジョン(げんきなまちづくり)を実現すること)】北条砂丘(砂丘地農業と自然環境)から北栄町を『元気』にすること  
 【コンセプト(目的を達成するために施設が担う役割)】地域に愛され北条砂丘の魅力に満ちた交流拠点  
 【テーマ(再整備全体で一貫して表現すること)】北条砂丘のめぐみ

北栄町の『元気』とは

- ・農産物及び加工品生産者の生産・販売に対する意欲が高まり、消費者が積極的に購入したいと思える状態(北栄町産農産物ファン創出)
- ・施設整備による観光客滞在時間の延伸に伴う、物理的・経済的な賑わいの創出が生まれる状態(アウトドア満喫、北栄町産農産物の堪能)  
 →経済的な賑わいの創出から、新たな企業進出が創出される状態

『北条砂丘のめぐみ』とは

現在の北条砂丘を構成する魅力的なもの  
 自然、歴史、景観(※白砂青松)、農業、ひと等

北条砂丘の魅力に満ちた交流拠点とは(食・遊)

- 農業をしている方もこれからする方も「砂丘地農業がしたくなる」(食) -  
 【要素】  
 ・農産物を通じた生産者と消費者の繋がりから、生産者のモチベーションアップが可能(顔が見え、評価を聞ける仕組み作りによる自己研鑽・ファンの獲得を実現)  
 ・ライフスタイルに合わせ、新しいことへの挑戦が可能(付加価値の創出による小ロットの農産物の栽培、ブランド化の実現)  
 ・農産物の味覚を堪能・発信することが可能(応援団・リピーターの獲得を実現)  
 ・農産物の高付加価値化による所得向上を実現(生産性向上、生産者の所得水準の引上げ)  
 ・耕作放棄地減少を実現(新規就農者の増、耕作面積の維持・増加)等(農業のまち「北栄町」の活性化、「北栄町のめぐみ」が表現された農地が一面に広がる美しい景観の実現)
- 多様な「アウトドア体験がしたくなる」(遊) -  
 【要素】  
 ・多様なアウトドア体験が可能  
 ・美しい海岸を活用した充実空間の実現が可能  
 ・女性と子どもが、一日を通して楽しめる全天候型多目的広場の活用が可能  
 ・白砂青松と北条砂丘を堪能できるバンガロー等、宿泊施設の使用が可能

道の駅「大栄」と「北条公園」の棲み分け・連携

〔棲み分け〕

道の駅「大栄」

○ 歴史・文化・観光を通じた交流拠点

- ・青山剛昌ふるさと館に隣接し、由良駅まで続くコナン通りの玄関口となるべく観光拠点
- ・由良台場に隣接する北栄町の歴史・文化の発信拠点

〔連携〕

○道の駅「大栄・北条公園」の周遊性を実現

- ・道の駅「大栄」において、コナン通り、国史跡由良台場をはじめとする観光を楽しんだ後は、道の駅「北条公園」で農業のまち北栄町の味覚を堪能。一日の終わりは、それぞれに合った宿泊の形でゆったりと北栄町の日を満喫。朝晩は、一面に広がる白砂青松に癒されながら、一人ひとりの充実空間を堪能。

○道の駅「大栄・北条公園」の災害時連携強化を実現

- ・高規格道路閉鎖時における交通結節点を活かした、災害時地域内連携強化を実現

道の駅「北条公園」

○ 砂丘地農業・自然環境を通じた交流拠点

- ・町民の生活を育んできた北条砂丘に位置し、北栄町の『砂丘地農業』を町内外へ発信する情報発信拠点
- ・9基の風車、美しい白砂青松の景観を通じ、自然環境の素晴らしさを再認識する拠点  
 ※立地条件を活かした情報発信・防災拠点

# 道の駅「北条公園」再整備について（案） - イメージ -

## いまのすがた

### 1. 情報発信機能（限定的な情報の発信・沿線道の駅との競合）

- 交通情報：紙ベースを中心とした情報に限定され、リアルタイムな情報が得にくく、利用者が必要とする情報が不足
- 観光情報：広域観光ルートの結び付きが不十分であり、限られた情報の発信

### 2. 地域連携機能（選択肢の縮小・滞在時間の縮減・砂丘地農業の衰退）

- 買う：町内スーパーでの食材調達及び近隣市町村商業施設での日用品、医薬品等の購入（選択肢の不足による町外分散化傾向）
  - 遊ぶ：オートキャンプ場を中心としたアウトドア空間による遊びの提供（雨天・積雪時の利用者少数）
  - 食べる：特産ねばりっこを活用した定食及びうどん、ジェラートを中心に展開
- ※砂丘地農業の魅力の理解にまで至っていない

### 3. 休憩及び防災機能（休憩機能の不足・危機管理体制の不備）

- 休憩：コテージを利用した宿泊。大型・長距離トラックの長期滞在に対し、一般車両の通り抜け増加
- 防災：防災機能を有していない

### 『道の駅「北条公園」を目的地化』

通過点となっている現在の道の駅を目的地化することにより、多くの人々が集い、賑わいが生まれ、砂丘地の活性化につながる交流拠点として再整備する。



## 事業スケジュール

- H30・・・基本計画
- H31・・・地形測量・基本設計
- H32～・・・実施設計・用地買収・建築解体工事・造成・建築工事

## 平成30年度スケジュール

施設の規模・配置・形態及び町道の線形を設定し、計画の概要を策定する。

## 再整備後のイメージ

« “ひと” ・ “モノ” ・ “情報” の流れが集中する結節点の活力

→ 地域活性化へ

### 1. 情報発信機能強化（効果的な情報の発信・沿線道の駅の連携/ハブ的役割）

- 交通情報：北条湯原道路と山陰道が結節する交通の要衝におけるきめ細かな道路交通情報の発信
- 観光情報：本町及び県中部地域をはじめとした周辺地域を結ぶ観光・周遊ルート等観光情報の発信

### 2. 地域連携機能強化（選択肢の拡大・滞在時間の延伸・砂丘地農業の発展）

- 買う：近接地に進出予定である大型商業施設における地元産農産物・日用品のほか、キャンプ食材及び資材等の購入（1箇所ですべて揃う）（ガソリンスタンド出店予定）
  - 遊ぶ：オートキャンプ場を中心としたアウトドア空間の充実による遊びの提供（ブラッシュアップ・・・グランピング、キャンプファイア機能の付加）誰もが楽しめる遊べる施設の整備（全天候型施設の整備）
  - 食べる：地元産農産物を中心としたレストラン等の展開
- ※砂丘地の恵みを実感→砂丘地農業の魅力を理解→移住定住の推進、若年層における地域の担い手育成

### 3. 休憩及び防災機能強化（休憩機能の充実・危機管理体制の充実）

- 休憩：白砂青松の砂丘地に風車が佇む絶好のロケーションに癒され、小休憩コテージを利用した宿泊  
目的地化することによる滞在時間の延伸
- 防災：雪害・風水害等災害時におけるオートキャンプ場を活用した炊き出し・給水・テントの利用によるプライバシーに配慮した宿泊施設の提供  
一時待機場所として必要とされるマンホールトイレ・給水施設の設置  
災害物資の集積拠点となる備蓄倉庫を設置  
集中除雪、交通事故等における車両待機スペースの確保による迅速な通行規制の解除及び災害時の速やかな道路交通の確保を実現

